

「アドベント、主を待つ恵み」

マタイ24：1-8

堀田修一 21・12・5

I アドベントの意味：「到来」という意味。①人々の救いのために人となられたキリストの初臨（クリスマス）を待ち望む待降の時と②歴史の審判者、救いの完成者としてやがて来られる再臨のキリストを待望する時。※クリスマスは、聖書的には、12月25日と断定はできません。伝統的に守られています。信頼出来る神学者たちも、それを認めています。東方教会は、12月25日ないし1月6日に守っています。神は、主の十字架の受難日やイースターの日、ペンテコステの日、聖書で明らかにされました。なぜ、神はクリスマスの日を聖書から、明確に分かるようにされなかったのでしょうか。それは、12月4日のクリスマスコンサートも12日の子どもクリスマス会も、19日のクリスマス礼拝も、24日、25日、26日のクリスマス（経済的な理由）も、1月のクリスマス会（※ある宣教師の思い出）も、喜んで下さると言う事ではないでしょうか。早過ぎるクリスマスも遅すぎるクリスマスもありません。年中、クリスマスの主のへりくだりと愛、ひとり子さえ下さった父なる神の愛を思い巡らし、心から感謝しましょう。

II 再臨の主を希望を持って待ち望む。アドベントの意味の実行

聖書の「終わりの時」の正しい意味を理解したい。私達は、「終わりの時」と聞くと、長年を経ての終末、終わりの時と誤ってしまふ。ところが、聖書は違う。聖書は、キリストの初臨、クリスマスから「終わりの時」が始まっていると明確に教えている。→「キリストは、世界の基が据えられる前から知られていましたが、この終わりの時に、あなたがたのために現れてくださいました（クリスマス）」

I ペテロ1：20。「この終わりの時には、御子にあって私たちに語られました（クリスマスからキリストの33年の御生涯を通して）」ヘブル1：2。「終わりの時」は、主のクリスマス、生涯、十字架、復活により始まっていると理解すると、AD(主の年)100年までに記された新約聖書の多くが、主の再臨、世の終わりが近いと言われている事が、理解できる。「あなたがたが眠りからさめる時刻が、もう来ているのです…今は救い（主の再臨）がもっと近づいているのですから」ローマ13：11。この手紙は、パウロにより、AD57年頃、執筆された（バイブルナビ参照）。神の息吹、ご聖霊により。「万物の終わり（主の再臨）が近づきました」I ペテロ4：7。執筆年代：AD62-64年頃。バイブルナビ参照。

「時（主の再臨の時、終わりの時）が近いからです」黙示録22：10。執筆年代：AD95年頃。バイブルナビ参照。使徒ヨハネによる。新約時代に、主の再臨の可能性は、実際にあった。再臨が、現在まで、二千年間延ばされているのは、人々の救いの為の神の忍耐、愛、あわれみ。「主は…約束を遅らせているのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。しかし、主の日は盗人のようにやって来ます」

II ペテロ3：9-10。

Ⅲ 世の終わりの時のしるしと主の再臨による新しい創造、新しい天と新しい地が産まれる産みの 苦しみ

1. 世の終わりのしるし。「あなたが来られ、世が終わる時のしるしは、どのようなものですか。そこでイエスは…答えられた。…『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わします。また、戦争や戦争のうわさを聞くことになりませんが、気をつけて、うろたえないようにしなさい。そういうことは必ず起こりますが、まだ終わりではありません。民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、あちこちで飢饉と地震が起こります（ルカ21：11では、「疫病が起こり」とある）。しかし、これらはすべて産みの苦しみの始まりなのです。そのとき、人々はあなたがたを苦しみにあわせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます（迫害が起きます）」マタイ24：3-9。
2. 新しい天と新しい地の「産みの苦しみの始まり」とは。広い意味では、新約の二千年間が、すべて産みの苦しみの時代。神が忍耐して、悔い改めを待っていて下さる。神の前には、千年は一日のよう、一日は千年のよう。Ⅱペテロ3：8。二千年は長いようだが、神の前には短い時でもある。苦しみはあるが、それが、産みの苦しみであるなら、やがて主が来られたなら、それは、新天新地の素晴らしい恵みに変えられる。確実な希望がある。再臨後の素晴らしい天と地については、黙示録21と22章に記されている。じっくり読んでいただきたい。主が来られる前に、苦難があるのは、私達が「目をさまし」神に近づく為。「目を覚ましなさい。…用心していなさい。人の子（主）は思いがけない時に来るのです」マタイ24：42、44。主を待つ事と環境汚染問題への対処、二酸化炭素を減らす事は両立する。
3. 主は、弟子達が悲しんでいる時、その苦しみは苦しみに終わるのではなく、やがて復活の喜びに変えられると励まされた。私達の罪の為の十字架の死と復活の勝利について語られ、それを産みの苦しみと出産にたとえておられる。ヨハネ16：21-22。十字架の苦しみが復活の喜びに変えられる。苦難が栄光に変えられる。私達も苦難により、主の栄光に与かる。私達は、地上では苦難を受けるが恐れる事はない。

Ⅳ 世の終わりの時代、産みの苦しみの時代に、私達に与えられた神からの使命は＝全世界の教会が祈りつつ手を取り合い、主の救いの福音を家族、知人、友人、全世界に宣べ伝える事。祈りつつ伝えたい！

「御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わり（主の再臨）が来ます」マタイ24：14。「イエスの御前で、その現われ（イエス様の再臨）とその御国を思いながら、私は厳かに命じます。みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても（苦難、迫害があっても）しっかりやりなさい」Ⅱテモテ4：1、2。

苦しみ、困難、試練の中で、私達は、もう駄目だと落ち込んでしまうことがある。心が折れそうな時もある。しかし、主イエスは、一番苦しいところを通して勝利された。それ故、私達は、主と共に歩むなら、その勝利に与かる。主は、弱さのある私達を愛しつつ支えて下さる。世の終わりには、この世はだんだん悪くなって行く。しかし、失望する必要はない。父・子・聖霊の三位一体の神は、歴史の支配者、すべての支配者。困難な時代に、福音宣教が全世界に広まり続けている。この2千年間、迫害の中で、福音宣教は、消滅するどころか、神の力により広まり続けている。苦難の中、死をも恐れず（キリスト者にとり、死とは、天国に行く恵みであ

り、天での礼拝に加わり、神に愛され、神を崇める幸いに入れられるから) 主を証しする人々により、福音は全世界に宣べ伝えられて行く。暗い事ばかり起こる時代ではなく、全世界に福音の希望の光が広がって行く時でもある。1世紀、ローマ帝国の迫害の中、殉教して行く人たちの希望に満ちた姿により、多くの人々が生ける主を信じた。日本でも、キリシタンの殉教の姿が、残された人々を励ました。世の終わりの時代、苦難の時代は、ただ耐えるだけではなく、聖霊なる神に満たされ、主の救いの福音を人々に伝える時である。

主の私達の為の十字架の苦しみと復活の栄光は、すべての源！

終末の苦しみは、主の再臨の栄光へと変えられる！使徒信条：からだのよみがえりを信ず=罪のない魂と栄光のからだに変えられる！

苦難の時代は産みの苦しみであり、栄光の時代、主の再臨により産み出される新しい天と地に変えられる！「私(ヨハネ)は、新しい天と新しい地を見た。以前の天と以前の地は過ぎ去り」

黙示録21：1